

平成20年度・広大マスタース市民講座報告 「バロックの美術と音楽」

金田 晋

計4回、以下のように開催された。10月4日(土)原田宏司会員(音楽)出席者22名/10月11日(土)金田晋会員(美術)出席者14名/10月18日(土)原田宏司会員(音楽)出席者20名/11月15日(土)金田晋会員(美術)出席者12名。

秋はたのしい行事が多く、酒まつり(11日)、豊潮丸クルージング(18日、マスタース例会)、生涯学習フェスタ(11月1日、広大ホームカミングデー)などと重なり、講師の都合もあって、変則的な日程になった。出席者は、特に美術に関して多いとは言えなかったが、出席者はずいぶん知的教養が高く、大学の専門教育レベルの質疑が交わされた。マスタースへの期待も高く、よい企画であったと思われる。

音楽に関しては、初回で「バロックの音響理念を求めて」と題して、バロック音楽様式の成立と本格的な器楽曲の発展について音を交えながら話し、第3回目で「バロックの大家にみる合理主義的精神」と題して、主にヘンデル、バッハの劇音楽にその特徴を跡づけた。

美術に関しては、初回でバロックの意味、ルネサンス美術とのちがいを説明し、カラヴァッジオ、ベラスケス、ラ・ツール、ルーベンス、レンブラント、フェルメール等の代表的作品を映像に映しながら解説した。2回目は「花の絵画」をテーマに、バロック以前のランブール兄弟の時祷書からはじめて、バロック期における花の描写とそこに隠されている寓意的世界について解説した。最後に日本の花の表現法との比較を行った。

